

ある看護科教員のアタマの中

12

～実習後のお手紙～

山岸 若菜

はじめに

看護学生はとにかく実習が多いです。

3年生ともなれば一年を通して2～3週間の実習を色々な領域で経験するので大変ですが、1年生の一番初めの実習というのはたった数日ですがとても緊張して初々しいものです。

だってナースステーションにいただけでも邪魔にならないところの位置もわかりませんもんね。

今回1年生の初実習を引率してきました。私が担当したグループではなかったのですが、3日間受け持った患者さんにお手紙を書いた学生がいました。

結果的にはその手紙は渡さないことになったのですが、印象深い出来事だったので今回書きたいと思います。

1年生の基礎実習

今回の実習は1年生の基礎実習と言われるもので3日間でした。

初めて病院の病棟の中に入って患者さんを受け持ち、患者さんというのはどんな環境で入院生活を送っているのか、患者さんとはどんな人なのかを知るのが実習の大きな目的です。

この実習ではビッグイベントがいくつかあります。

まずは初めて学生ではない人に熱や血圧を測るバイタル測定と、普段の練習部屋ではない病室のベッドのシーツを交換です。学生は大緊張なのでそれぞれ20分ぐらいかかります。

そして家族や友達ではない人とのコミュニケーションです。ただの雑談ではなく、患者さんのこれまでの生活や病気のことなど聞かないといけないことがあるので初めはメモ帳片手に事情聴取のようです。

それでも日を追うごとに慣れていき、患者さんと関係ができてくると学生はだんだん患者さんと話をするのが楽しくなってくるし、患者さんも学生がかわいく頼もしく思えてくるようです。

最終日の手紙

私が担当したグループではありませんでしたが、最終日患者さんに手紙を書いてきた学生がいました。

内容は3日間の感謝とリハビリへの励ましでした。

私が学生だった頃はそういう手紙を渡したり逆にもらったりすることもよくあったのですが、最近は基本的に受け取らないし、渡さない方針です。

理由は個人情報保護と本来感謝の気持ちは看護の中身で返すべきという考え方のようです。

個人的には「別に渡したらええやん」派ですが、確かにコミュニケーションが良好にとれた人だけ学生から手紙をもらっていたら他の人はどうなの？とも思うので、渡さない方が良いと思います。

でもこれが2週間続くような領域の実習ならどうなのでしょう？

学生からではなく、患者さんからのお手紙だったらどうなのでしょう？

私には自分が領域実習に行ったときのことを思い出しました。

学生の頃の思い出

私が看護学生の時、消化器外科の実習に行きました。

実習先は怖い実習指導者さんがいる、消化器外科は処置がたくさんあって大変だという噂が飛び交っていたので実習前から緊張して事前の勉強も一生懸命やったことを覚えていてます。

外科の術式も覚えてし、どんな術後の人が担当になって指導者さんに突っ込まれても大丈夫と気合を入れていったところ、私の担当は試験開腹の患者さんでした。

胃がんで手術をしたけれども手の施しようがなく、何もせずに閉じただけの人だったのです。正直とてもがっかりしました、あんなに勉強したのにとりあえず勉強した内容はあまり役に立たず、しかも本人に手術結果について詳しいことは言わないという方針だったのです。

実習は2週間もあるのに処置もなく、とにかく患者さんとしゃべるだけの毎日でした。患者さんは手術をして良くなったと思いついでいる様子で、案外気づかないもんなんだなと思いつつ毎日他愛のない話をして他の実習メンバーが大変そうな処置や指導者さんから突っ込まれているのを少し羨ましく感じていました。

そして実習最終日前、いつものように担当の患者さんのところに話に行くと「こんな話、看護師さんにも誰にも言えへんけどちょっと聞いてくれるか？」と患者さんが言い出しました。

もちろんいいですよ。という私に患者さんは、自分は胃がんの手術を受けたはずなのに、何も良くなっていない気がする、お医者さんもあまり話をしてくれないし、本当に良くなってるのかわからないのだと話してくれました。

私は普段穏やかな患者さんの初めてみる勢い込んだ話し方と、患者さんが何も気づいてないと思いついでいた自分の鈍さに驚きました。

試験開腹だったことは言えないので、ただうんうんと聞いているだけでしたが、この話をだれかに聞いてほしかったのだらうと思います。

一通り話し終わるとまたいつもの穏やかな患者さんに戻り「ごめんな。こんな話して。聞いてくれてありがとうな。」と言ってくれました。

そして次の日お別れの挨拶に行くと、これ内緒なと言ってテレホンカードと一言のメッセージカードをくれました。

今の時代は本人の健康情報を本人に内緒ということはまずありえないし、検査技術も上がっているので開腹してから手の施しようがないということもまずないでしょう。

でも人と人とは接する実習期間でお互い何かの形で感謝の気持ちを表したいと思うことは今後もあるんじゃないかなと思います。

そういうことが起こった場合、教員としてはどう対処したら良いのかは私はまだまだ迷いそうです。